研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成24年12月17日発行　No.14

「第2回授業力向上カリキュラム・マネジメント研修」

講師：中村学園大学　田村知子　先生

対象：高知市立小・中・特別支援学校15・20年次教員
平成24年８月23日（木）実施

概要

授業力向上のためのカリキュラム・マネジメントについて深く理解するために，カリキュラム・マネジメントシートをもとに，大岱（おんた）小学校の実践を分析しました。その後，講義演習を生かして，自分のカリキュラム・マネジメントシートをもとに１学期の実践を振り返るとともに，２学期に向け，修正の必要な箇所等検討し，感じたこと，気づいたことも含め，シェアリングを行いました。

■ 研修Ⅰ　講義「東村山市立大岱小学校の実践から」

質の高い授業を生み出す校内研究 ➡ **言語わざを取り入れた学び合い・問題解決型学習**

⑴　言語わざ
　① 学習言語わざ　② 学び合い言語わざ
⑵　問題解決型的な授業モデル

⑶　「まなブック」
　子どもたちが自ら学び，自ら考え，自分たちで授業を進めるための方法をまとめた“学びの教書”

カリキュラム・マネジメントを支える「新学校システム」

① 組織構造
- 職員会議・委員会の廃止　・即座の立ったままのミーティング　・一役一人制　・事案決定システム
- 1月から新年度の教育課程を新しい学校運営組織で行う

② カリキュラムのマネジメントサイクル（短期のＤＣＡＰの経営サイクル）
- 行事や活動直後に評価・改善ミーティング→「直後プラン」作成→１年中，教育課程の評価・改善・計画

③ 組織文化
- １人年間２回以上の研究授業　・ワークショップ型研究協議
- 課題論文，参観者論文（研究授業の振り返り）

＜ 演習 ＞ グループごとに大岱小学校の実践を分析し、成果物を作成しました。

【分析シート】

学校教育目標の設定

（○ 強みや成果　△ 疑問点）

教育活動↑

【D実施】
○具体的な手立てが明確「言語わざ」「生活のきまり」など
○授業スタイルを全校で統一（若手教員でもできる）
○まなブック（見やすい　困ったときすぐ調べられる）の活用
○辞書を活用した授業　○ノートコンクール
△45分の授業で教師が話す時間が5～10分

【C評価　A改善】
○成果物の視覚化・共有化
○研究協議で改善策を全員で考える

【P計画】
○直後プランで改善を図り見通しをもつ

【リーダー】
○校長のマネジメントの指針がはっきりとしている
○YSJ（よいことはすぐ実行）とTTP（てっていしてぱくれ）の考え方
○みんなが平等　エースに頼らない

↓経営活動

【組織構造】
○行事後すぐ評価。次年度のために直後プランをだす
○事務雑務の効率化　○1月に仕事を交代
○無駄な会をしない
○△一役一人制
△職員会をしなくて大丈夫か
△直後プランを3日後に出すことはできるのか
△教師の個性が欠けそう

【学校文化】
○研究授業の視点を明確化
○生徒に見せる研究授業（生徒が学び方を学ぶため）
○研究協議の内容を校内に掲示し，生徒や保護者と共有する
○子どもと向き合う時間の確保
△委員会をしない（異学年交流が必要では）
△1人年2回の研究授業
△模造紙，掲示物などが多く大変

【家庭・地域社会等】　○地域や中学生が積極的に協力参加　○外部との連携が組み込まれている

■ 研修Ⅱ　実践交流

グループごとの1学期の実践のふり返り

＜受講者の感想＞
- コミュニケーションを積極的にとり，従来の考え方にとらわれない発想ができるような人間力を持たなければならないと感じた。チームの概念を最重視し，個人の思いで完結することのないようなスタンスが必要だと痛感した。
- カリキュラム・マネジメントについて，その導入された歴史や現状，ミドルリーダーとしてどうあるべきかなど，チーム力が重要であると感じた。自己の課題を検証していく上で，マネジメントの視点に立ったときに見出せる課題も多くあった。演習では，お互いが認め合いながら成果物を作ることができ，この作業こそがマネジメント能力の育成につながると実感できた。まずできることから「自らやってみせる」という視点で取り組んでいきたい。

「ICT研究指定校研修会」

対象：ICT指定校教職員及びICTについて学びたい方(希望者)

平成24年度は，４校(新堀小・第六小・小高坂小・旭中)をICT研究指定校とし，各教科等の目標を達成するための効果的なICT機器の活用に関する研究を進めています。

第１回 ICT研究指定校研修会

(会場：高知市立第六小学校)　平成24年９月20日（木）実施

★ 目的：ICT機器を効果的に活用した授業づくりについての共通理解を図る。
授業づくりの視点を学び，機器を積極的に活用しようとする意欲を高める。

１ 示範授業

横浜市立高田小学校　佐藤幸江　主幹教諭

■【使用したICT機器等】：電子黒板・パワーポイントで作成した自作教材(写真・グラフ)
東京書籍デジタル教科書４年算数

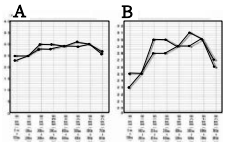
■【ICT活用の目的】：電子黒板で様々な情報を提供することで，学習活動への興味・関心を高める。
印をつけたり拡大したりして，自分の考えを根拠を示しながら説明する力を高める。
デジタル教科書を使って大事な用語を隠すことで，既習事項の想起を促す。

■【単元名】：４年算数 「折れ線グラフ～波線による省略のよさを復習しよう～」

■【本時の目標】：波線を使って途中を省略したり，一目盛りの大きさを変えたりすると，変わり方が読み取りやすくなる場合があることを，２つのグラフの比較を通して考える。

佐藤幸江 主幹教諭

＜受講者の感想＞
・従来の黒板に貼るアナログ資料では見えなかったり，変えられなかったりしていたものが，デジタル教材では鮮明に表れ，何度も使えることがよさであると思った。
・デジタル教科書を使うと，既習事項がすぐに呼び出せるので，情報が児童の頭の中でつながりやすい。
・機器の操作は簡単。教材解釈が深い程，効果的な活用ができることがわかった。

学習活動と内容	ICTの活用
１．身近なスポーツの話題から「速く」走るためには一定の速さで走ることが重要であることに気づく。 ・表の読み取り	○ ロンドンオリンピックを取材した新聞を電子黒板で拡大提示し，記録を出すことの意味やその大変さなどについて関心をもたせる。 ○ イエゴ選手と秋子さんのラップタイムを表にしたものを電子黒板で拡大提示し，印をつけながら記録を確認し，比較の視点を明確にする。
２つのラップタイムを記録するには，どちらのグラフがよいか話し合おう	
２．AとBの折れ線グラフについて，話し合う。  ・目盛りの取り方の違い ・省略のしかた ・傾きの読み方 ３．自分がラップタイムを記録するとしたら，どちらの記録のしかたがよいかを話し合う。 ・１秒の違いがはっきり分かるBグラフ ４．今日の学習を振り返る。	○ デジタル教科書の既習事項をマスキングしておき，傾きの読み方を想起させる。 ○ 電子黒板にAB２つの折れ線グラフを拡大提示し，ラップタイムの変化を表すには，折れ線グラフの方が便利であることを思い出し，その傾き方で変化の違いを知ることができることに気づかせる。 ○ 電子黒板に提示した２つの折れ線グラフから根拠を示しながら，自分の考えを発表させる。 【考え方】変わり方をわかりやすく表すにはどんなグラフがよいか考える。

２ 講話 「電子黒板を効果的に活用した授業づくりについて」

横浜市立高田小学校　佐藤幸江　主幹教諭

【授業づくりの視点】

★ 従来どおりの授業研究を行うなかで・・・

① **非ICT(黒板・教科書・ノート・実験・実物教材)にICT(電子黒板やデジ タル教材等)のよさを組み合わせた授業デザイン**を意識する。

【電子黒板の活用効果】	【電子黒板の機能】	【従来の黒板】
●学習意欲の向上 ●共に学ぶ ●思考の可視化 ●イメージの拡大	●印をつける ●動かす ●消す・もどす ●音を出す	●消えないよさ ↓ 残したいことは黒板に書く

② 明確な意図を持ってICTを活用する。
※ ICT機器は，授業づくりのツールの一つ。

③ 「ICTならではの」活用・「ICTの方がよい」活用・「ICTでもよい」活用を区別して使う。

④ 子どもたちがICTを活用する場面を増やす。(**思考の可視化**)
例) 子どもが書き込みをしながら説明し，意見を交流する場面

効果的な活用のために明確にすべきポイント

電子黒板等のICT機器を・・・
① いつ活用するか
② だれ(先生・子ども)が活用するか
③ どのタイミングで活用するか
④ どのように活用するか
⑤ なぜ活用するか

＜受講者の感想＞
・ 子どもが自分の考えを伝えるアイテムとして，電子黒板を使っていけるのではないかと考えた。
・ 電子黒板だけでなく黒板とのバランスを重視する必要があると感じた。
・ 児童生徒の実態や授業のねらいや内容に応じて使い方を工夫していくことが大切だということが分かった。

ご意見・ご感想等を高知市教育研究所教職員研修班までお寄せください。